

平成 31 年度（令和元年）第 3 回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和 2 年 2 月 14 日（金）16 時 00 分～18 時 00 分
出席者 協議会委員 山崎 彰・西澤 信善・宮坂 政宏・岩元 宏司
校長 平野 裕一
事務局 武内 由佳・松本 恵美子・上林 卓也・安福 一貴

次第

1. 校長挨拶
2. 会長挨拶
3. 協議・報告

（1）平成 31 年度 学校経営計画及び評価について

校長）

- ・教員のアクティブラーニングへの取り組みは順調に進んでいる。また、生徒の発表形式の授業への慣れも感じ取れる。
- ・部活動との両立については生徒の自己評価は低く、教員は高く評価しており教員が求めるものとのズレを感じる。
- ・視聴覚機器の活用はまだ低い状況にある。
- ・高大接続、入試改革に向けた講演会等の実施に取り組んだ。
- ・自習室の利用については低い回答だったが、感覚的なものであるため調査方法に工夫が必要だと考えている。
- ・担任以外に相談できる教員がいるという生徒の回答が低いが、本校は担任依存が強く、分掌等が弱いのが原因だと考えている。多様な教員に触れることも大切だと考えている。
- ・大学への進学後を見据えた進路指導が必要だと考えているが、ただし狭めすぎないことも大切にしたい。そのために身近な卒業生との交流も企画したい。
- ・「働き方改革」に向けた取組みでは、単なる時短ではなく、労働の質が大切だと考えている。そのためにも事務的作業を機械化する必要がある。
- ・本年度の取り組み内容及び自己評価については
学習サポートプログラムの満足度は 9 割以上であった。
自習室の利用については、来年度以降調査方法を検討するべきだと考えている。
進路に関する連携については当初の目標を上回っており、職業別進路講演会では、海外経験のある方を招いた。
行事に関する肯定的意見は生徒・保護者ともに高い。

人権の大切さにおいてはネット上の人権意識を高めた。

- ・SSH事業は来年度、第3期を申請。またSGHの後継としてWWL事業を進行させている。

委員)

- ・研修などの手段が目的と一致しているのか。
段階を踏まえて、順を追いどのようになったかを考えることも大切ではないか。

校長)

- ・ループリックを活用し、数値化で評価したのに対して意義付けをしていけたらと考えている。

委員)

- ・授業評価（アンケート）の数値をどう見ているのか。

校長)

- ・数値のみでは評価していない。教員一人一人への評価をしている。
- ・すべての項目をフィードバックし、極端に低い教員には個別に指導している。
生徒から見た評価だけでなく、教育の専門家からの評価も加える。

委員)

- ・分かりやすい → レベルを下げるから分かりやすい
分かりにくい → レベルを上げると分かりにくいという両面があり管理職の目が大切である。

委員)

- ・教員自身が目的に見合ったことができたかも大事な評価であると思う。
生徒の満足度と合わせた評価が必要であろう。
豊中高校版の授業のスタンダード（共通の財産）を共有すべきである。

校長)

- ・2021年7月に研究授業の実施を検討中であり、本校の生徒にマッチするアクティブラーニングを開発していきたい。

委員)

- ・教員の目標としている授業ができているのか、それが生徒マッチングできているか、ギャップがあるのではないか。生徒とのマッチングを評価する必要があるのではないか。

委員)

- ・毎回の授業において目標を伝え、どういう力をつけたいのかを明確にする必要がある。
- ・小学校は専門性がない分、不安もあるため、研究授業を多く実施しているので、参考になるのではないか。

校長)

- ・小学校の授業を見に行くことも大切かもしれないと考える。
教科横断的な授業を考えている。そのため職員室に交流スペースをつくるなどを計画している。

委員)

- ・自己診断の項目は時代に見合ったように変えていくべきであろう。
- ・部活動との両立は、部活に入っていない生徒をどう含めるのかが問題であろう。
自分の生きがいなどと学業が両立できているのかが大切（部活動に入らないといけないという時代ではないのでは）
- ・自習室の利用に関しては、利用したいと思っている生徒からの満足度を調査すべきであろう。
- ・担任以外に相談する教員がないというのも、相談する必要もない生徒と、相談を必要とする生徒がいるのではないか。

校長)

- ・学校教育自己診断の質問内容については検討していくべきであると考えている。

(2) 令和2年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

校長)

- ・国際舞台で活躍→グローバルに活躍
ICT機器を活用
超過勤務時間が年間800時間を超える職員0をめざすなど目指す学校像について説明。

委員)

- ・人権の大切さを理解させ多様性を理解し、行動に移せることが大切であろう。

校長)

- ・社会問題を意識させた教育を考えていきたい。

委員)

- ・WWL「健康・医療・幸福」での豊高としての具体的な取り組みはどう考えているのか。

校長)

- ・このテーマを率先して行うということはない。イスラーム社会に関する研究に限らず行う中で、そういうテーマが出てくればと考えている。

委員)

- ・「健康・医療」というと、大きく考えてしまうが、地域、家庭などのコミュニティに焦点を当ててみてはどうか。

校長)

- ・豊中という地域に貢献できることを考えている。

委員)

- ・ICT機器の活用とはどのようなことを考えているのか。

校長)

- ・府立学校にWi-Fiを導入が検討されているが、スペックがどれほどのものか、学校裁量がどれだけきくのかのどの問題がある。

委員)

- ・便利だけでなく、活用することを考えなければならない。
- ・ICT機器を同のように使用するか
データベース（教材、演習、授業）として、コミュニケーションツールとして、
検索・調査、表現などの利用としてなどが考えられる。

校長)

- ・本校の学校教育がどのように変われるのか、時間・空間を超えた学びなどという時代が来るのではないなど考えられる。

委員)

- ・スペックは低くても十分、コンテンツが大事である。

校長)

- ・SSH次期申請については
高校内でから小中学校・大学から地域へ、さらに豊中市と統括協定を結ぶなどして申請中である。
- ・今後3年間の動きについて
教育課程→単位数合わせの作成はだめであると考えている。そのためにR2年には公開授業を行い、R4年から本格実施していく。

各委員)

- ・令和2年度学校経営計画及び学校評価（案）を承認する。